

将来的な取組みのあり方に向けた 今後の議論の方向性について

歴史文化資源の保存活用

現況

- 村内には遺跡や古墳等、重要な歴史文化資源が数多く存在し、これを保存・活用するために遺跡の発掘調査、国営公園や県立万葉文化館、牽牛子塚古墳復元等のハード整備、またガイド育成などのソフト施策が進められてきたところ。
- 一方、未発掘の遺跡も残っており更なる調査が必要であるほか、世界遺産登録や観光振興のためにもわかりやすい歴史展示や情報発信が求められている。

第1回小委員会の指摘事項

- 本物の持つ力が飛鳥の魅力の一つ。遺跡本体の整備を行ってほしい。
- 例えば飛鳥京跡とか都城の遺跡や寺院の遺跡に関しては研究が進んでおり、そうした研究成果をきちんと反映する方向で遺跡の整備等を考えてほしい。



牽牛子塚古墳の整備
(令和3年度末完成)



中尾山古墳

将来的な取組みの方向性(例)

- 歴史文化資源の調査研究や維持管理が今後も持続可能となるような仕組みの構築。
- 観光施策と連携し、周辺地域の文化財や施設を広域的に結びつけた、歴史文化資源の活用。
- 担い手育成の観点から、特に若い年代が歴史文化資源に触れ、楽しみ、学べる場の検討。



まるごと博物館構想 (R2~)



飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の登録推進
(中核的な構成資産となる飛鳥宮跡の整備の検討)



特別史跡高松塚古墳

交通

現況

- 村民の生活のための地域交通及び観光客が拠点間の移動に利用する公共交通について、これまで周遊バス運行やデマンド型乗り合いタクシーの実証運行など、利便性を向上するための取り組みが実施されてきたところ。

第1回小委員会の指摘事項

- 農業をやっていただくためにも人の足を確保するのは非常に大事
- 世界遺産登録で交通が持つのか、交通需要予測等をきちんと行う必要があるのでは

将来的な取り組みの方向性(例)

- 村民及び来訪者のための、多様な公共交通手段の確保と利便性の向上のための取り組みを引き続き推進。
- 取り組みにあたっては今後オーバーツーリズム対策が必要になる可能性も考慮。
(例えば歴史文化資源等を巡る観光客向けの周遊交通と地元住民向けの交通とで棲み分けを図る等が考えられる。)



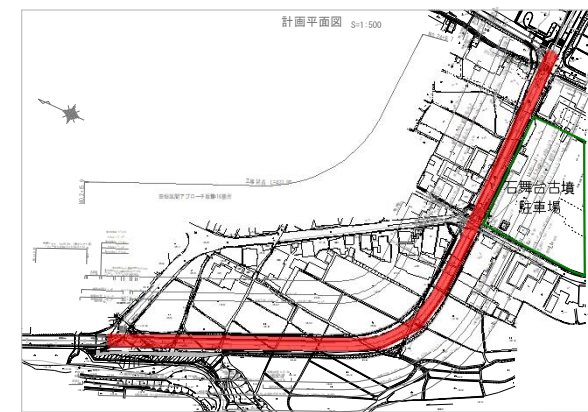
スローモビリティの導入



飛鳥時代の歴史を体感するツアー
(サイクリングツアー) や
タブレット端末の活用



あすかデマンド乗合交通



バイパス設計図 (仮)
(県道多武峰見瀬線(島庄工区))

観光

現況

- 観光地としての地位を確立しているが、来訪者数は昭和50年代のピーク時に比べると半分以下の水準となっている。また宿泊施設が限られているため、日帰りでの訪問が観光客の7割程度となっている。村では観光戦略を作成し、戦略的なPRや体験プログラムの造成、プロガイドの育成等を実施している。
- なお、近年インバウンドが急増していることや世界遺産登録を目指していることを踏まえると、オーバーツーリズム対策も考慮する必要がある。

第1回小委員会の指摘事項

- ストーリー性を持って、飛鳥の中に点在している史跡を巡るコースをいくつも設定してほしい。
- 本物の持つ力が飛鳥の魅力の一つ。遺跡本体の整備を行ってほしい
- 観光戦略について、どういったお客様にどういった時間を過ごしてもらうか、を皆さんで合意をとると良いのでは。
- 拠点となる宿泊施設が交通とともにきちんと整備されていることが肝要と思う
- 京都のように多くの人がきていただく観光は目指さない前提
- 包括的な文化プログラムとか教育プログラム等のソフトの部分の充実を

将来的な取組みの方向性(例)

- さらなる観光振興に向け、国内外の幅広い層・団体に地域の価値や魅力を伝える取組みを引き続き推進。
- 滞在型・体験型観光の推進に向けた取組みを引き続き推進。
- 取組みにあたっては今後オーバーツーリズム対策が必要になる可能性も考慮。



ブランシエラ ヴィラ 明日香
(築約150年の古民家を再生したホテル)



「飛鳥・藤原まるごと博物館」検定
(古都飛鳥保存財団実施)



飛鳥地域(母国語)プロガイドの認定

景観

現況

- これまで古都保存法・明日香法をはじめとする土地利用規制により、無秩序な開発が抑制され、貴重な歴史的風土を構成する景観が概ね良好に保全されてきた。
- 一方、古都買入れ地の維持管理が難しくなっていることや、農業・林業就業者の減少から、田園景観・里山景観の保全が懸念されている。
- これに対応するため、ボランティアや企業のCSR活動も含めた新たな担手の発掘の取組が行われているところ。

第1回小委員会の指摘事項

- 現在の飛鳥の景観というのは昭和初期・中期の景観であり、古代の本物のすごさが分かる景観
- 本当の景観、飛鳥時代の景観が一部見えているということを形成していくことも必要
- 戦後に森林から農地へ変わったところは森林に戻し、本当に農村景観的、あるいは農業として良いところは農業で残すべきでは
- 「生きている景観」というのが明日香村の特徴、持続可能性の観点は大事
- 景観は保存ではなく保全、変わるということがアイデンティティ



村内の田園風景



歴史的街なみ（岡集落周辺）



牽牛子塚古墳からの眺望



石舞台古墳上空より明日香村全景
（写真：明日香村）

将来的な取組みの方向性(例)

- 関係法令による土地利用規制を通じて無秩序な開発を防ぎつつ、重点的な景観誘導により明日香らしい景観づくりを引き続き推進。
- 景観は常に一定ではないという認識のもと、現状維持にとらわれず、あるべき姿を検討しながら維持管理を推進。
- 古都保存法による買入地の適正かつ柔軟な管理活用手法を検討。

農業

現況

- 村内の就農者は減少が続き、高齢化も進行、遊休地や耕作放棄地も増加している。これに対応するため、農業の6次産業化や新規就農者に対する支援の取組みが行われているところ。
- 新規就農者や村内の後継者は直近数年間では増加傾向となっている。

第1回小委員会の指摘事項

- 一番大きな課題は農業の担い手が不足してきていること
- 買い取り地が点在し、かつ耕作放棄地になっているのも問題、農地や林地がどうなっていくのか、担い手がどういう形で可能性があるのか
- 一元管理するべきだろう
- 農業をさせてもらえないかという人々もかなりいるが、参入の障壁は農業用の家が無い・農機具の置き場が無いこと

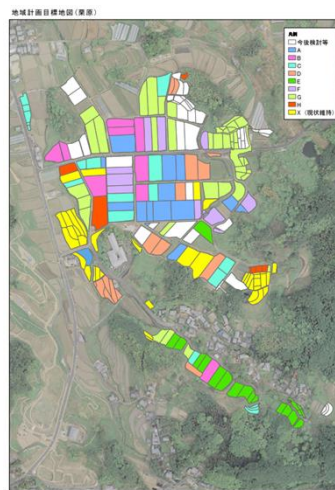


オーナー制度の推進（棚田オーナー）



将来的な取組みの方向性(例)

- 明日香の有するブランド力を生かした高付加価値化、あるいは省力化や一元化等による事業性の向上を引き続き推進。
- 多様な主体との連携や新規就農者の参入の促進による担い手の確保を引き続き推進。
- 景観保全の観点も含め、エリアごとの最適な管理手法を総合的に検討。



人・農地プランから地域計画へ
(栗原大字の農地集約に向けた目標地図)



省力化作物の実証栽培（つぼみな・ツルムラサキ・タアサイの実証栽培）や高付加価値化米の販売（高付加価値化米「あかねさす」）

生業とくらし

現況

- 人口減少が続く中、村民の60%が村外で従業している。また、第一次産業就業者の割合は10%程度で、近隣自治体に比べれば比較的高いが、長期にわたり減少が続いている。
- これに対応するため、農商工の活性化による雇用機会の維持・創出の取組や、空き家の活用に向けた取組が行われているところ。

第1回小委員会の指摘事項

- 村内での就業率が低い。分析の必要があるのではないか
- 仕事のあり方が大きく変わっている時代の変化も踏まえて生業をどう考えるのかというのも絡む話と思う

将来的な取組みの方向性(例)

- 農林業・観光業等の担い手を確保するための取組みや新たな産業の誘致を引き続き推進。
- 企業のCSR活動の充実化に加え、職場の二拠点化やリモートワークの普及といった近年の働き方の変化を踏まえた取組みを検討。
- 居住者等による伝統文化の維持継承を図るとともに、伝統文化の一層の普及に向けた取組みを検討。



伎楽に関するワークショップの実施や小学校での郷土学習の実施（明日香小学校）



企業によるサテライトオフィス設置の例
(ゾーホージャパン静岡県川根本町サテライトオフィス)



プロガイド養成講座